

他社のできない様な仕事をやりとげるといふ強み。

角南 博和

代表取締役 / 営業及び生産管理全般



もっと生の声

Q & A

— 今後取り組んでみたいことはありますか？

AIを利用した縫製ロボットを作ってみたいですね。布は薄手の素材から、厚手の素材まで様々であるため、機械による自動化は実現しませんでした。でも、AIなら学習機能を活用して実現できるのではないかと期待しています。

— 思い出に残っていること、今感じていることはありますか？

バブル崩壊、リーマンショックと経済危機を何とか乗り切ってきましたが、現在のコロナウイルスの影響が一番厳しいと感じています。しかし、少ロット生産に加え、他ではできない仕様に対応してきた経験を生かして、この長期戦を乗り切りたいと思っています。

— 働く方のために、色々と工夫をされていますね。

当然ですが、土日は完全に工場を休み、休日もしっかりとれる環境です。ほかに、若い人に経験を積んでもらうため、工場では、業務時間外にミシンを好きに使ってよいことにしています。もちろん翌朝に元に戻せることが前提ですが(笑)。自分用でも、家族や友人用のものを作ってもいいです。自由な発想で経験を積めることは、よい経験になるのではと思っています。



大学卒業時は不況の時代で「父が経営していた会社に就職する道しかなかった」という角南社長。「就業時は、ほぼ100%がナショナルブランドのジーンズの縫製をしていましたが、時代と共に多品種少ロットへと転換していく中で、次第に他社のできない様な仕事でも受けなければやっていけないと考えるようになりました。社員の誰もが高い縫製技術を持っているわけではありません。どうしたら社員の誰かが縫っても、同じようにきれいに縫えるか悩みました。そして、試行錯誤の末、ミシン等の設備の改良や縫製方法を見直すことでその問題解決にたどり着きました。」

現在は、約20社の得意先からの受注対応を始め、ミシン等の機械の改良、縫製方法の改善などにより作業の効率化にも力を注いでいるそうです。「ベターではなくベストを尽くす。全てはどこかにヒントがあります。いろいろなところからきっかけをもらい、工夫や改良をすることでベストに近づくと考えています。」

